



図書館からひとこと

まもなく夏休みです。

図書館は夏休みにむけて、長期貸し出しをおこなっています。返却期限は9月4日(月)。
長いお休みには本を読みましょう！

図書委員のお薦め本

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』

汐見夏衛作(スターツ出版文庫)

親や学校、すべてにイライラした毎日を送る中2の百合(ゆり)。母親とケンカして家を飛び出し、目をさますとそこは十年前、戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰(あきら)に助けられ、彼と過ごす日々の中で百合は彰の誠実さと優しさに惹かれていく。しかし彼は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だった。のちに百合は、期せずして彰の本当の想いを知る。

涙なくしては読めない。最後の最後まで、とてもいいお話です。何度読んでも、涙がとまりません。百合の気持ちと彰の気持ち、生きたくても生きていけない悲しさ、せつないお話ですが、小説好きにはたまらないと思います。もし、少しでも「この小説気になる」「読んでみたいかも！」と思った方は、ぜひお手にとって読んでみてください。

図書委員のお薦め本

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい』

汐見夏衛作(スターツ出版文庫)

この物語は、『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』と同じ作者が書いた続編である。

中学二年生の涼(りょう)は転校先の学校で、どこか大人びた雰囲気と同級生の百合(ゆり)と出会う。この二人は初めてあったはずなのにどこか懐かしく感じ、ずっと前から知っていたような不思議な感覚があった。

この小説は七十五年前(小説の発売日から)の戦時中にまつわるお話で、百合の悲しすぎる過去の恋物語がある。そんな二人の恋のお話は物語の中に入りやすく、読んでいくうちに、自分の身近で物事が起こっているような感覚になる。少しくスツと笑えるところと感動で涙が出るところがあるのでぜひ読んでみてほしい。

司書のお薦め本

『成瀬は天下を取りにいく』

宮島未奈作(新潮社)

主人公は、何でもできるせいで仲間はずれにされていますが、マイペースで生きる成瀬あかり。

そんな成瀬にいつもふりまわされるのが友だちの島崎みゆき。この二人の幼稚園から高校3年生までの物語です。

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」(6頁)

「島崎、わたしはお笑いの頂点を目指そうと思う」(38頁)

ちょっと、いやかなり変わった努力と友情の物語です。

